

二級河川山海川水系河川整備基本方針

平成 26 年 10 月 17 日

愛 知 県

目次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要.....	1
1) 流域の概要	1
2) 河川の概要	1
3) 治水事業の沿革	1
4) 水利用	2
5) 河川環境	2
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
1) 基本理念	3
2) 基本方針	3
ア 災害の発生の防止又は軽減.....	3
イ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持.....	4
ウ 河川環境の整備と保全.....	4
エ 河川の維持管理.....	4
2. 河川の整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	6
(参考図) 山海川水系図.....	7

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

1) 流域の概要

山海川水系は、その源を愛知県知多郡南知多町大字山海の山嶺に発し、下流の市街地を流れた後、伊勢湾に注ぐ、流路延長約 1.0km、流域面積約 4.2km²の二級河川である。

山海川の流域は、南知多町に位置し、流域内人口は約 1 千人である。流域の土地利用は、流域の大半が山地であるが、上中流の河川沿いに水田、下流部には市街地が分布しており、平成 21 年時点で宅地等の市街地が約 6.8%、水田や畑等の農地が約 23.4%、山林が約 67.4%、左記以外の土地利用が約 2.4%となっている。

産業については、山海川流域に位置する南知多町では、古くから漁業、農業が栄えていた。山海川の特徴的な産業として、現在は河口付近における海水浴場と一体となった観光産業を挙げることができる。また、山屋寺等の歴史的な建築物も見られる。

気候については、山海川流域の気候は太平洋気候区に属し、四季を通じて温暖である。昭和 58 年から平成 24 年までの平均年間降水量が約 1,500mm、年平均気温は約 15℃である。

地形については、流域の大半が山地、上流部は河川沿いに水田、下流部は低平地が広がっており、そのほとんどが市街地となっている。

地質については、丘陵地は山海累層で構成されており、河道周辺の低平地について、河川の上流部は沖積層、下流部は沖積層（砂州・砂堆積物）で構成されている。

植生については、上流部の河川に隣接する場所のほとんどが水田地帯となっており、水田には水田雑草群落が分布している。下流部は市街地となっており、植生があまり見られない。

主要交通網については、下流部に国道 247 号が横断している。

本流域は「東海地震に係る地震防災対策強化地域」、及び「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されている。

2) 河川の概要

山海川は知多半島の南西側に位置し、南西に向かって流下し、伊勢湾に注ぐ河川である。

山海川は、流路延長約 1.0km、流域面積約 4.2km²であり、河川の特徴から下流部（河口～月の輪橋地点）、上流部（月の輪橋～二級河川上流端）に分けられる。感潮区間は約 0.9km までとなっている。

下流部は、川幅が 10～30m 程度、河床勾配が 1/600 程度となっており、瀬や淵は見られず、単純な河川環境となっている。また、両岸ともにコンクリート護岸が整備されており、河川の背後には市街地が広がっている。全域が感潮区間である。

上流部は、川幅が 7～10m 程度、河床勾配が 1/200 程度となっており、全区域において水際植生が繁茂している。また、両岸ともにコンクリート護岸が整備されており、河道は主に有堤河道となっている。河川の背後には農地が広がっている。

3) 治水事業の沿革

洪水被害としては、昭和 49 年 6 月の豪雨で、時間最大雨量 72.0mm、24 時間最大雨量 146.0 mm

を記録し、南知多町全体で床下浸水 253 戸、床上浸水 503 戸、浸水面積 225.7ha の被害を受けた。

高潮被害としては、平成 24 年 9 月の台風 17 号では、時間最大雨量 44.0mm、24 時間雨量 105.0mm を記録し、床上浸水 1 戸（床下浸水なし）、浸水面積 0.15ha の被害を受けた。

山海川では、高潮対策として伊勢湾台風に対応した防潮樋門（山海川水門）が整備されている。

4) 水利用

本流域では、ため池や河川からの取水によって農業用水を確保してきたが、昭和 36 年の愛知用水通水以降、大部分を木曽川水系に依存している。また、水道用水は木曽川水系を水源として供給されている。

山海川流域は、水利権は設定されていない。

5) 河川的环境

山海川水系の河川は、ほぼ全区間でコンクリート護岸が連続している。

自然環境については、山海川の下流ではニホンウナギ、ボラ等の汽水・海水魚、ホソウミニナ、モクズガニ等のエビカニ貝類、サギ類、スズメ等の鳥類、トノサマガエル等の両生類、バッタ類等の昆虫類が確認されている。上流では、コイ、メダカ南日本集団等の純淡水魚、カワニナ、クロベンケイガニ等のエビカニ貝類、モズ等の鳥類、トノサマガエル等の両生類、カヤネズミ等のほ乳類、バッタ類、ヤマトアシナガバチ等の昆虫類が確認されている。

下流は植生に乏しく、上流はヨシ等の水際植生が見られる。

重要種としては、ニホンウナギ、メダカ南日本集団、カヤネズミ、トノサマガエル、ヤマトアシナガバチ等が現地調査により確認されている。また、外来生物としてはミシシippアカミミガメ等が確認されている。

河川の利用については、河口部周辺は山海海水浴場があり、観光客が訪れる。また、山海川水門付近では、イベントが開催され、利用されている。

水質については、環境基準の類型指定がされておらず、大半が感潮区間となっていることから水質観測も実施していない。

また、山海川流域では、下水道整備は実施されていない。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

1) 基本理念

山海川水系では、昭和 49 年 6 月の豪雨で、時間最大雨量 72mm、24 時間最大雨量 146 mm を記録し、南知多町全域で床下浸水 253 戸、床上浸水 503 戸、浸水面積 225.7ha の被害を受けた。

このため、山海川水系の治水施設整備を行い、治水安全度の向上を図る必要がある。

山海川の河口部には、山海海水浴場があり、多くの観光客が訪れる観光地となっている。また、上流部には多くの植生が確認され、重要種も確認されており、生息環境の保全が必要である。

このようなことから、山海川においては、洪水や高潮等に対して安全であるとともに、自然環境の保全に努めながら、地域住民の豊かな暮らしを支える川を目指すものとし、今後の河川整備の基本理念を以下のように掲げる。

『緑と潮風に包まれ、田園を流れ、豊かな暮らしを支える安全な川づくり』

～心豊かな暮らしを支えるとともに、

水害に対して安全な川づくりを進めます。～

2) 基本方針

山海川水系においては、上述した基本理念を踏まえ、河川整備の現状、水害発生状況、河川利用の現状、流域の歴史並びに環境等を考慮し、また関連計画等との調整を図り、段階的な整備を進めるにあたっての目標を明確にして、河川の総合的な保全と利用を図る。

実施にあたっては、関係市町のまちづくり事業、地域住民及び関係機関と連携することによってより良い川づくりを図るように努める。

また、工事の影響が及ぶ範囲に所在する記念物・埋蔵文化財等については、関係機関と協議し、十分に配慮する。

ア 災害の発生の防止又は軽減

山海川水系においては、過去の浸水被害、氾濫区域内の人口資産等を総合的に勘案し、洪水等による災害の発生の防止又は軽減を図るため、基準地点橋詰において、年超過確率 1/30 の規模の降雨（毎年その規模を超える降雨が発生する確率が 1/30、24 時間雨量 278mm、1 時間雨量 77mm）による洪水を安全に流下させることを目標とする。

また、伊勢湾台風規模の高潮による浸水被害の防止を図るための高潮対策、想定される地震により発生する浸水被害の防止、軽減を図るための地震・津波対策、施設が有している治水機能を適切に発揮するための既存施設の補強、老朽化対策など、必要な対策を講ずる。

また、河川工事の対象としない区間については、現在有している治水機能が適正に発揮できるように、今後も河道を始め河川管理施設の維持に努めることを目標とする。

一方、目標とする治水安全度を超える規模の洪水や、整備途上段階での施設能力を超える洪水に対しては、ソフト・ハード一体となった総合的被害軽減対策の推進として、雨量や河川水

位等の防災情報の提供や、洪水ハザードマップの作成支援、水防体制の強化等、関係機関や地域住民と連携し、被害の軽減を図る。

イ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、今後も流況等の把握に努めるとともに、関係機関と連携し、動植物の生息・生育・繁殖環境、景観や親水等の河川環境に配慮し、流水の正常な機能の維持に努める。

ウ 河川環境の整備と保全

河川環境の整備と保全に関しては、現状の自然環境や地域の保護活動、郷土の歴史などを踏まえ、治水・利水と調和した河川環境の整備と保全に努めるとともに、関係機関や地域住民と連携した川づくりを推進することに努める。

【動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生】

動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生については、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境及び生態系ネットワークの形成に配慮するため、地域住民と連携し、以下のような川づくりに努める。

- ・良好な環境を有する箇所での河床形態などの維持・形成
- ・寄せ石などにより魚類の潜み場を確保する
- ・生態系に悪影響を及ぼす可能性のある外来種の必要に応じた対策

【川とふれあえる場の維持・形成】

川とふれあえる場の維持と形成については、川に親しみ、ふれあい活動の場にするため、地域住民の利用状況や要望等を踏まえ、関係機関や地域住民と連携し、階段など人々が川に近づける親水施設等の整備に努める。

【良好な景観の維持・形成】

良好な景観の維持・形成については、河口・下流域の都市景観、上流域の田園風景等、周辺環境と調和した水辺空間の維持・形成に努める。

【水質の改善】

河川の利用状況、水利用状況、動植物の生息・生育・繁殖環境等を考慮し、関係機関や地域住民と連携を図り、さらなる水質の改善に努める。

エ 河川の維持管理

河川の維持については、山海川水系の特性や整備の段階を考慮し、さらに、「洪水や高潮等による災害の発生防止又は軽減」、「河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持」及び「河川環境の整備と保全」等の視点から総合的に判断し、洪水時や濁水時だけでなく、常時河川の有する機能を発揮できるように、関係機関、地域住民及び占用者等と連携し適切に行う。

特に河道と堤防の維持管理にあたっては、地域住民と連携を図り、生物の生息・生育・繁殖環境及び生態系ネットワークの形成への影響を十分配慮する。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

山海川水系においては、年超過確率 1/30 の規模の降雨（毎年その規模を超える降雨が発生する確率 1/30、24 時間雨量 278mm、1 時間雨量 77mm）により発生する基本高水のピーク流量を、基準地点橋詰において $70\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを洪水調節施設は設置せず、河道の配分流量を $70\text{m}^3/\text{s}$ として安全に流下させる。

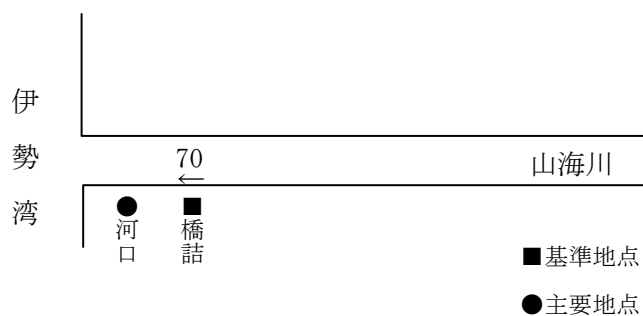
基本高水のピーク流量等一覧表

単位： m^3/s

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
山海川	橋詰	70	0	70

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

山海川水系における計画高水流量は、基準地点の橋詰において $70\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図（単位： m^3/s ）

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

山海川水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次の通りとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P. (m)	川幅 (m)	摘要
山海川	橋詰	0.23	1.38	7.0	
	河口	0.0	3.34※	14.9	

T.P. : 東京湾中等潮位

※計画高潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

山海川では流況の把握が困難であることから、今後も関係機関と連携し、可能な限り流況の把握に努め、流水の正常な機能の維持を図っていく。



(参考図) 山海川水系図

